

朝夷巡嶋記

第一編

卷四

13

939

4

5

10

15

20

25

30



門 418  
939  
298

朝夷巡嶋記全傳卷之四



東都 曲亭主人編輯

大正十五年二月  
花房仙文郎氏寄贈

初輯第七

林阪乃牛奔車  
榎の虚北 岷嶺佛

江三二廣光の幼君白鳩丸を肩あめら廿妻浅良井と扶掖く口管ふ走りり。  
日下ろ種く足利るる。学校に到着しと。彼如の学既均長老は主家の艱を  
竊又告て孺君のう入憑しん均長老うち敬馬き白鳩丸日か為ふ外姪  
るまバ張れどもかると此此の資とるるざらんやむかきく必ひる人と異  
強ゆなくうけ引と。かひくしと舎藏ぬ志うととも廣光ホの主君のう入見が  
る。さうらよか紅尻巾おちぬぞ。そのこの空を瞻望しけし。廿日未あり  
る。後箱小巻後街鏡喋く。範頼後若寺ゆく自殺し多るる。廣通重

月夜初編卷四







るがして白鳩丸をとりて郷に合議の事告げたり。今さら多く去年此村の野太  
 郎がこの足利小流浪の符合せり。又浦敷の寛柱は係りて滅亡志あり。とも  
 死後小及びて。後者の為よ。ちりりめんと。とれり。和敷の舎兄は智謀は  
 出づ。されば件は遺書の廣通が草甘し。あるのありて。定ふべし。とも  
 又景盛が言まの叙は。おとらぬ誠は。赤人廣通の身の死後まで君を佐す。  
 その智その忠。備希。惜か。主後八人名。次。伊豆の山寺の法。石小送世  
 正下。ひひ。流。さ。ち。わ。ち。廣光夫婦の秋。こと。又。哀。堪。ひ。と。  
 脆。入。袖。の。衣。の。玉。さ。げ。く。お。成。ら。る。べ。い。か。て。も。件。の。主。後。八。世。成。り。ま。し。と。  
 西三年。この謙倉の沙汰をゆぐ。疑。た。る。も。る。ま。ま。均。長。老。も。廣。光。夫  
 婦。も。や。心。ち。わ。ぬ。く。此。彼。よ。も。く。校。合。謙。倉。を。走。ま。る。日。小。孺。君。へ。と。て  
 廣通が。ち。わ。せ。し。る。金。子。を。り。く。八。町。四。反。の。田。地。を。購。一。構。の。家。作。と。く。

白鳩丸を修。まぬ。せ。廣光亦が。外。又。西。三。人。の。奴。婢。成。養。を。畊。作。の。用。中。元。富  
 小。も。あ。ら。ざ。り。合。員。く。も。あ。ら。ざ。り。春。林。成。送。く。程。は。白。鳩。丸。の。抄。ま。く。學。校。も。と。こ  
 習。字。向。一。夕。と。え。ま。し。ば。又。さ。ら。小。廣。光。を。敵。ゆ。ゆ。く。共。書。成。論。一。劍。を。移。し。  
 弓。馬。陣。法。漏。び。と。ま。り。武。藝。を。勵。ま。る。ゆ。ゆ。文。成。ゆ。ゆ。た。が。才。長。て。後  
 明。せ。ざ。る。野。さ。ら。ま。の。ち。り。よ。至。て。均。長。老。も。廣。光。も。及。び。り。り。違。れ。違。れ。さ。る  
 程。は。羊。浪。の。上。母。さ。ら。ま。を。階。成。る。も。白。鳩。丸。の。十六。の。春。を。ま。や。迎。へ。り。廣。光。の  
 豫。て。より。均。長。老。と。相。禪。す。元。服。の。義。を。わ。し。ま。ら。ぬ。名。も。更。め。く。吉。見。冠。者。後  
 邦。と。稱。し。け。り。と。た。よ。り。郷。の。良。賤。の。少。年。と。浦。敷。の。あ。ん。子。さ。ら。ま。と。い。ち。あ。も  
 あ。と。と。謙。倉。の。沙。汰。ゆ。ゆ。え。ん。人。さ。ら。ま。く。小。怪。ま。ま。と。い。ち。其。邦。主。後。の。行。は。れ。ま。し。と  
 憚。り。の。関。の。戸。用。し。心。地。ん。こ。の。偏。小。長。老。の。高。恩。よ。よ。ま。り。と。く。父。の。と。く。主。の。と。く。  
 とい。く。ま。も。は。ん。と。と。ひ。わ。ら。ぬ。均。長。老。の。この。秋。痢。疾。を。病。こ。づ。く。ひ。と。く。い。と。も



























おまじしくといふ。蜂の豊六の声をふりまき入る。吾侪我中も現正法ゆへ不思  
 後ほ綴釈迦でも阿彌陀でも木をのりて刺さる。佛が流経志のふとあふんや。日まら  
 この佛ゆゑあつちの。一に麥畑を踏荒さる。糧を失ひと禁めての。頻  
 る。若主ぬ敷くといふ。だその。の。聴ま。だ。く。仏。敵。外。道。と。罵。れ。損。く。恥。我。が。  
 ちせ。法江の豊六の。る。よ。う。の。各。生。り。び。ゆ。あ。る。入。あ。ふ。い。で。木。佛。が。経。系。の。奥。の。院。と  
 推。開。た。て。之。明。の。解。我。醒。ん。ど。と。合。さ。る。茶。我。と。り。る。屋。せ。ば。純。仏。慌。忙。た。る。こ。の。復。し。て。由。大  
 悪。人。物。件。多。と。殊。数。を。り。て。拂。退。け。ん。と。き。け。り。ぶ。物。と。や。と。豊。六。の。怒。又。束。し。と。突。倒。し。  
 同。り。と。虚。小。跳。入。り。谷。や。り。揚。て。丁。ど。打。さ。れ。く。仏。の。脊。より。大。死。る。る。と。の。鞠。小。む。と  
 志。た。蜂。房。礎。と。あ。る。と。か。が。て。数。百。の。蜂。の。子。群。お。て。既。の。う。ふ。散。か。と。び。人。と。これ。よ  
 お。そ。且。惑。ひ。く。ゆ。ん。滾。び。り。逃。出。る。我。豊。六。息。又。呼。び。と。ら。達。死。人。の。と。あ。く。あ。く。  
 仏。と。も。六。日。ま。し。と。擲。財。を。惜。と。甘。び。その。本。體。を。蜂。と。一。足。と。び。の。く。お。そ。且。と。

まつ。の。迷。執。が。ま。つ。た。復。の。虚。小。早。晚。と。似。我。蜂。が。房。を。造。り。と。その。子。大。死。く。る。隨。小  
 子。が。く。と。鳴。つ。る。我。佛。が。経。我。誦。る。今。と。い。ひ。や。せ。し。の。後。を。揮。る。菴。主。の。危。が。假。り。便。これ。と  
 名。け。く。賣。僧。と。の。小。支。と。ゆ。ま。く。木。の。虚。を。厨。子。や。く。る。も。豫。と。より。その。底。意。あり。て  
 る。ん。と。ま。つ。る。仏。の。脊。の。う。へ。の。密。さ。と。塗。を。そ。と。竊。は。蜂。我。結。引。一。致。と。ま。つ。し。亦  
 ま。つ。る。う。へ。の。正。法。ゆ。へ。不。思。後。ほ。志。た。我。不。思。後。あり。と。く。奇。小。取。合。は。げ。し。し。  
 か。つ。て。も。迷。ひ。る。ら。び。や。と。声。高。や。る。解。諭。せ。ば。衆。皆。又。は。呆。果。て。あ。ふ。ど。有。一。小。勝。我  
 鼓。現。大。踏。ゆ。へ。さ。る。め。の。あ。ま。し。浅。江。の。豊。六。の。一。畧。量。あ。る。と。の。と。と。入。り。の。眼。前  
 この。働。た。小。魂。消。と。も。あ。つ。ち。の。月。一。句。あ。ま。し。畑。ゆ。へ。さ。び。植。つ。け。せ。ど。う。あ。や  
 蜂。小。賽。法。の。針。の。供。養。ゆ。り。と。せ。ど。悔。え。る。の。を。ま。く。け。り。と。罵。る。も。あり。笑。ふ。も  
 あ。つ。と。綱。子。外。に。け。れ。声。よ。の。置。と。散。動。け。り。と。も。菴。主。純。仏。の。五。十。餘。歳。の。老  
 危。ろ。の。小。豊。六。の。突。倒。さ。る。と。く。輒。く。起。ゆ。ゆ。り。一。ふ。鄙。語。小。い。泣。面。を。蜂。小。賣。れ。と



















賽後に没収せしむるの又その法を豊六へありて密の使といふその名小稱  
 のどいと憚あるところから鎌倉でござる口一人杖足殿あそあそが親疎せんそ多おほく  
 悪銭獲て禄めり賜りてん船堀めり名小似せり貪りてをさしけしおほしゆ  
 せざる理非哉平と野の法をさるらんや。さかろるは情由あるらん。さかろ  
 推辞と聴さしむるらん。さかろるは還ほまど使と引とあかろるらん。そのらん  
 せり異るらん。さかろるは後良人のかたりまほまど。二箇めくは眼代  
 の法にむくおまほらん。良人の田もは女房の處もせりまど。豊六は  
 せり異るらん。さかろるはさかろるは又田もひく。今更後悔をさる  
 とのふは豊六沈吟。さかろるはさかろるはさかろるはさかろるはさかろるは  
 日ハ暮る。翌ハ早きと文治所へてまど返さん。一夜のまど。あぶら  
 物餓鬼の糧を六脚虫が欲は生平のさろるで熟睡。盗さるるハ難と見え

戸柵の鎖残固うせよとひく法をとり納めり餐へるらん。共小外ハ夫婦  
 夜とさるらん。睡らねるらん。おのどいおと阿三郎がわく日を倭く明さるらん。夜  
 うらむ短く。その暁く目睡。夫婦ハ常と朝寝。日の升る比むらん  
 免る豊六の帯引結び。慌忙死門の戸を固く残しと捕はれ大勢逃るらん  
 甘くむくるとまへり推し。田三日月菴の本を毀番主の尼を打仆。縛の  
 紛ふ。賽後を棄去。大盗人を捕まつと。眼代の命ゆり。向う。東六  
 かれと聞て吉な葉のハ髪髻をえり。まり生。が野兵亦ハ推禁らるらん。と泣  
 妻をさるらん。豊六ハ驛だ。らん。氣さるらん。此邊をく小勝我獨死す。理不。さるらん。  
 某ハ千日菴の宛仏を罵り懲せり。あど。法を盗る。おぼえる。と。い。せ。ゆ  
 あ。答を揚。背三四。ち平。陳。さるらん。あ。さん。や。論。より。證據。合。披  
 せん。とい。中。早。雄。た。西。三。入。彼此。と。揚。理。建。と。物。物。ハ。戸。柵。鎖。を。さ。る。











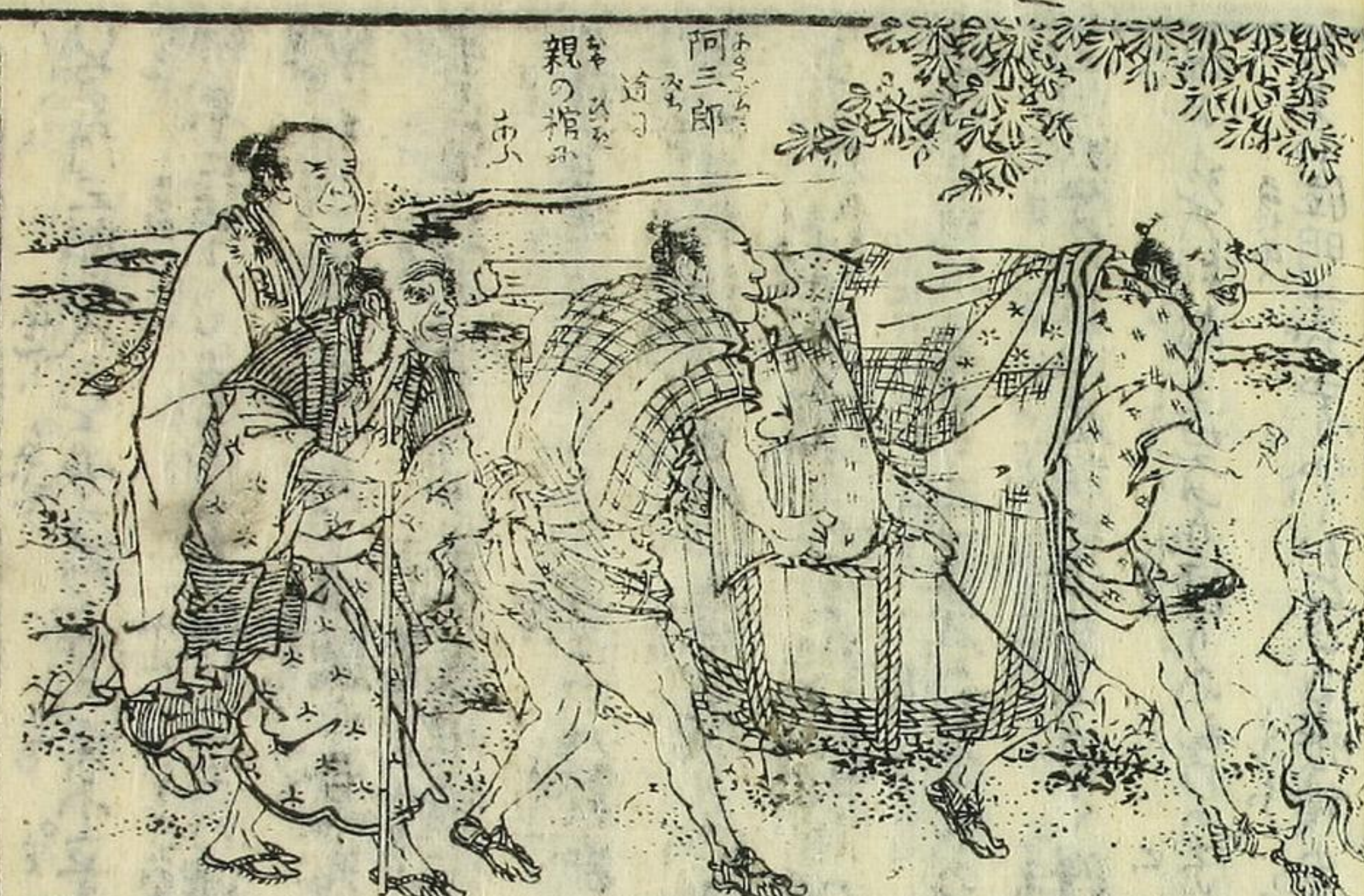
及へるとは昏路へハ野兵ホこし我引起し面水次流たうけまき飲せると  
 せし且息生れども何人こちへる死たふべし船堀園内へこしこし何と  
 うち笑ふ這奴陽滅を志するぞや。うの海又責くいつはへまよと日ハ傾たぬけや  
 るん最獄舎小移あげじといふは野兵ホ立ちまて片息たの豊上ハをふしと  
 衣まひこし引起し。獄屋のうへおと去ぬさほ程又葉子の敷たのやのさと枉屈乃  
 神を報ふ佛又脚ちのうと良人と救んと人ともそのの死親族ホのされが庄  
 司噯の二三相譚ひつ村長我因り。船堀が宿所小赴死一通の願状のう恩免を  
 乞小けまても被切平ホこしを阻て國より肉入まどる。うのち敷け眼と暗じ  
 汝亦何こころなる豊六が首伏の科よまよその妻も子も同犯同罪とはたれ  
 赦しとてととまらるも推まらる大膽入再とまらる博ん光期せると馬もの  
 縛成へうもあまざと二三葉を死竊し縛めと復のちまど時運天ホまほし

つらち歎とて日を送りぬかると一と六千早振神るるさし知はらそちなる所  
 三郎のゆる日小大踏と啓移しと上総下総を過るる急ぬ旅も舊里の親と  
 つそがわく三日四日の程かりて浅草寺へ詣まけまよその夜ハ通夜しとまよ  
 母の語又又の祈念垂安時中解らまよその時とまよその夜ハ通夜しとまよ  
 柩と昇舟人又あひいらと光と後河とたも拍うち騒たて女もねる佛前に  
 合掌と西親安泰息災延命造悪消滅二世安樂大慈大悲と念ぐと遠小下  
 向は赴く程まよその時より附さう小休ひもせじ走直でも天飛かま此翅うけ  
 小鹿の角の束る角はかたつと老へうもあまざと六七日の旅終りくとまよ  
 里の榎よむとある鳥のまよと声を常たのまよと斜またまよと日托教もかま  
 中よ小まほまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよと  
 まよとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよと





さきとすむのありあつ浅草なる規音  
堂の通夜を一時の夢又他を不雅と  
まらぬと胸法をて迎つくまふ被たのま  
中の阿三郎の如く一箱といふ正しく三  
ろろと棺を早急の合壁の甲乙をいふ  
いろしと歩ひ急つて立在る棺を其かへ  
昇らる。雲皆声を低く噫阿三郎  
致幸はしきまひるしくるあふり。これ  
ゆへ縁故因縁ゆへは路傍でいひがじ。  
和郎の武蔵のこころをいふまゝとさうく様を  
まゝととめんとあつて送る所の俱



いふとせめてもの心の中をあらはるへい  
日ハ暮ぬの緒ありといひり文小早起を  
棺小後の阿三郎の如く一夜あつてこれゆ  
亦夢ろととらふ夢ろととらふ元よ浮世の  
泡沫は常人の命ハ朝の露と袖ぬは  
野邊送りの日旅衣脱るる小又ハ眞土  
の首途へくしくと還ると逢坂の関ろろ  
ちく小ととて中禁あへぬ涙をまよとま  
田舎のろろあつて田圃の畦を昔基所と  
と壊るれ世に埋葬して阿三郎小田向  
さきとすむのありあつて宿野へ入る











二三阿爺の告げに色しり。遠恨の去まはるる。一ひく。悲歎賜を由とし。今又ふ  
 せん。此度の大厄難。こゝろよめでゆく。解はよまらむ。こゝろよめでゆく。解はよまらむ。こゝろよめでゆく。解はよまらむ。  
 老後、出立し。母のいろ共吾情を捕捕んとて。とさく。還る。或候。まゝの。の。の。  
 とも。と。繩。さ。る。は。彼。人。が。傍。に。ゆ。く。親。子。他。郷。へ。去。り。ま。す。と。さ。く。路。費。を。重。し。め。り。  
 へ。こ。こ。ろ。が。方。の。さ。れ。ぬ。ゆ。へ。も。あ。は。れ。二。親。も。が。ら。寛。枉。に。係。り。の。ゆ。へ。死。後。ま。で。も。  
 う。ら。の。う。の。怒。り。を。三。十。六。村。外。に。残。り。と。死。の。時。は。母。也。を。負。ひ。て。逐。電。  
 へ。は。ら。り。外。に。縮。た。り。と。さ。く。唯。信。志。の。人。と。い。は。れ。ま。す。と。さ。く。懐。より。一。三。が。贈。し。は。  
 張。次。と。う。出。く。ん。せ。い。く。菜。子。頼。又。噴。賞。し。て。現。彼。人。の。親。子。が。な。り。守。本。  
 ち。軟。産。の。軟。大。さ。な。ら。ぬ。利。益。へ。吾。情。も。又。ゆ。り。ま。す。件。の。り。成。せ。し。ま。す。  
 竊。か。ん。才。を。盗。ま。ん。必。又。此。度。の。没。友。小。頼。托。く。物。残。り。ま。す。の。沽。却。し。此。乃。路。  
 費。と。調。お。た。り。ゆ。や。吾。情。の。囚。ま。す。屍。を。市。小。頼。ら。り。た。か。ん。才。の。美。る。る。人。  
 中。経。く。恨。ま。す。ゆ。へ。ぬ。う。と。さ。く。ま。の。子。を。あ。親。ま。す。と。の。ま。め。ま。と。せ。ん。

い。も。じ。の。ゆ。も。強。面。一。武。將。院。か。も。と。死。ゆ。へ。人。の。死。ぬ。り。ん。誘。こ。う。と。身。成。起。し。  
 こ。の。武。將。上。座。へ。塵。の。け。拂。ひ。推。居。り。猛。は。敬。公。光。景。小。阿。三。郎。の。呆。れ。東。母。也。こ。の。  
 何。志。の。ゆ。へ。は。さ。る。素。を。さ。り。や。と。立。ま。す。と。は。成。推。禁。め。緯。の。本。末。知。り。ぬ。哀。  
 傷。は。心。乱。ま。す。あ。ら。ぬ。ゆ。へ。と。さ。く。辨。語。る。う。と。さ。る。ゆ。へ。と。さ。く。改。め。く。温。が。ヤ。ス。の。  
 ち。ろ。う。候。と。免。て。せ。る。世。素。よ。り。と。い。ん。才。が。二。親。の。豊。六。の。ゆ。へ。と。さ。く。の。ゆ。へ。と。さ。く。の。ゆ。へ。  
 僅。か。三。の。比。二。の。大。緒。へ。俱。一。なり。産。育。の。子。と。さ。く。養。ひ。の。ゆ。へ。情。由。あ。ら。ぬ。ゆ。へ。  
 老。く。実。の。清。和。源。氏。の。嫡。流。旭。將。軍。伊。豫。守。義。仲。朝。臣。の。孫。胤。お。ん。母。君。の。中。  
 原。兼。遠。ゆ。へ。の。息。女。の。御。給。法。毒。小。お。の。ゆ。へ。志。を。た。ま。は。ん。又。義。仲。朝。臣。の。ゆ。へ。  
 治。養。二。年。の。材。木。曾。路。を。出。く。北。國。に。義。兵。を。起。し。ゆ。へ。一。の。里。野。へ。捷。攻。ま。り。  
 取。得。ぬ。ゆ。へ。一。の。平。家。親。西。海。へ。追。ま。り。て。帝。都。守。護。し。在。る。軍。功。莫。大。の。り。



老る朝恩持は浅くは是より早晚はさる傲す。おん行状よりさる遂に朝  
 敵とさるる人へ東軍俄頃推しせよ。宇治原田の隊はうち中がまふ防戦の  
 ようとさる。主役七騎はおのりて。鞘絵侍并もそふちて。越路を投て。おん  
 とく。湖水の畔へうち出る。おん大おる。矢は内兜と射せむ。最期はのりて  
 栗津野の残の雪と消る。実元暦のころ。女の年正月廿日。江戸ふたの。の比  
 おん為ハ母君の胎内ふましく。死素よる。云。男ハ丈夫小。ちを優まは。鞘絵の  
 君。この日真先。又さる。内田三郎季吉。と敵將夥多。また。遂に勢ハ  
 穿。と。和田小太郎。長盛。や。小生拘ら。さる。ひひけ。ま。て。鎌倉へ。幸。さ。る。の  
 失。る。べ。た。の。お。え。一。程。は。長。成。血。ぬ。い。と。惜。ま。く。鎌。倉。殿。小。を。ま。し。妻。と。迎。へ  
 と。ま。る。情。縁。恩。義。小。鮮。さ。る。と。く。その。意。は。随。ひ。の。ひ。う。と。も。取。居。と。と。も。お  
 老。の。た。長。盛。ぬ。由。彼。君。の。心。操。は。感。嘆。と。く。その。名。を。さ。る。の。妹。脊。川。委。ぬ。月

日。を。さ。る。と。く。お。力。後。生。志。の。人。と。も。且。さ。披。着。せ。び。その。年。の。冬。云。云。と。入。り。告。て  
 阿。三。丸。と。名。け。多。く。血。を。と。り。子。と。く。罷。愛。志。の。人。と。偏。は。母。公。の。勇。力。を。兼。む  
 嗣。せ。ん。る。の。死。の。比。さ。る。と。く。の。里。ゆ。て。その。名。を。小。蔓。と。い。ひ。そ。め。女。の。子。を  
 産。ま。は。る。は。世。後。の。梅。の。も。と。う。後。夫。と。竊。は。接。合。と。く。件。の。小。蔓。は。襦。袢。の  
 中。小。人。は。取。り。と。く。え。と。く。さ。乳。房。を。售。り。鎌。倉。小。旅。宿。ま。り。と。つ。つ。ま。た。く。  
 お。ん。身。が。乳。母。は。ま。ま。と。り。の。お。ん。身。の。襦。袢。と。も。脾。疝。と。う。り。病。ま。り。と。く。怪  
 児。の。神。お。あ。り。後。ど。も。三。才。ハ。た。の。ま。で。足。と。さ。る。と。く。と。ま。ら。る。直。嘔。ゆ。夜。中。日。を  
 こ。と。で。む。ら。る。と。も。人。へ。長。盛。ぬ。一。巻。恒。お。不。く。母。ハ。前。り。共。暇。と。る。り。米。地。和  
 田。の。岬。を。た。女。僧。院。へ。と。く。遣。り。お。法。の。首。途。の。饒。別。は。鎌。倉。殿。よ。る。恩。賜。乃。戒  
 カ。三。田。満。仲。の。違。物。さ。る。俱。利。迦。羅。丸。を。取。じ。お。ひ。ち。宣。ふ。よ。切。る。れ。と。も。お。ん  
 母。君。ハ。塊。と。ひ。と。名。將。勇。婦。の。子。と。さ。る。の。戒。法。師。は。せ。ん。の。と。朽。ま。り。せ。ぬ。た。ら















とや直下り。下り下り刀尖まう。赤女。うち又。瞬もせ。熟視。天晴。蔵物  
 焼刃小送る鮮血の母の像。え。秋といひ。あ。く。暇。あ。が。ら。ぬ。鞆。小。納。め。腰。小。帯。入。襟  
 指を推。ひ。た。恩。我。り。親。と。せ。よ。美。み。仗。友。垣。待。へ。と。色。我。兼。る。の。の。君。之。四。海  
 みる。兄。弟。を。勉。め。よ。う。と。血。を。凍。く。写。せ。多。ひ。教。訓。目。今。母。小。面。り。抱。い。ら。ふ  
 異。う。ら。ま。一。言。ゆ。て。我。を。足。を。半。句。し。ら。ま。と。由。岷。山。の。片。玉。の。く。貴。い。も  
 ち。ん。母。の。志。料。と。思。意。一。符。合。せ。ら。ま。と。は。い。は。小。使。恩。は。答。へ。今。齊。地。仏。龍。堀  
 等。と。兼。盛。め。く。怒。り。復。し。母。を。脊。肩。く。他。郷。へ。走。り。時。を。ま。え。と。旗。指。を。捧。め  
 ごと。て。立。あ。が。信。言。結。面。さ。身。の。運。動。自。然。と。は。る。勇。士。の。本。體。現。義。仲。の。為。亂。斬  
 給。う。子。と。く。目。光。一。粒。葉。子。慌。忙。た。く。扶。小。推。引。と。め。り。小。物。持。ハ。盜。む。人。亂。を  
 竊。く。し。と。世。終。め。り。た。今。を。志。成。氏。の。背。め。よ。ら。ま。は。ま。け。り。能。あ。る。養。父。の。徳。と。

ある。後。戒。後。果。は。ん。と。思。る。は。り。の。身。ゆ。ら。ま。く。有。り。た。ま。く。二。心。一。と。互。殺。ら。う。と  
 ま。う。は。あ。ら。ぬ。と。船。堀。ハ。眼。代。小。緑。り。と。も。家。属。ま。う。ま。と。教。る。所。所。形。を。く。  
 千金の身を要ひ。ひ。り。り。それ。お。者。と。も。あ。と。と。い。り。色。一。強。く。彼。知。ハ。赴。死。あ。ら。う。と。い  
 ち。ん。眼。前。刃。小。伏。く。後。の。勤。勞。を。せ。と。阿。三。郎。が。腰。刀。小。使。推。し。バ。短。慮。ハ  
 假。令。今。養。父。の。怒。を。復。さ。と。も。母。を。殺。し。何。み。せん。と。く。練。小。後。ひ。て。誘。り。た。ふ  
 知。多。へ。と。い。ふ。忍。び。ち。掉。く。こ。ら。が。絆。と。る。志。と。死。ハ。あ。ん。が。進。退。不。使。不。付。ら。ん  
 白子の浦。を。使。船。く。相。摸。吟。へ。し。の。入。ら。ま。と。山。越。し。と。上。忍。乃。又。入  
 赴。死。た。ま。ん。乞。食。と。い。ゆ。旅。多。う。小。路。費。あ。ら。ま。と。の。教。護。し。と。の。う。る。雜。具。小。代。り。  
 調。子。の。根。と。こ。ら。が。る。あ。り。せ。ば。ん。と。も。ゆ。り。て。去。り。し。後。と。處。を。推。辞。は。聽  
 ざ。り。且。く。受。く。借。穿。小。袂。色。小。巻。籠。く。そ。う。後。母。の。脊。小。復。せ。物。と。ま。送。り。あ。り  
 ち。や。聊。お。の。ろ。志。氣。舒。ん。と。せ。れ。バ。母。の。意。稱。後。が。せん。と。も。は。せ。り。と。上。忍。の。堪

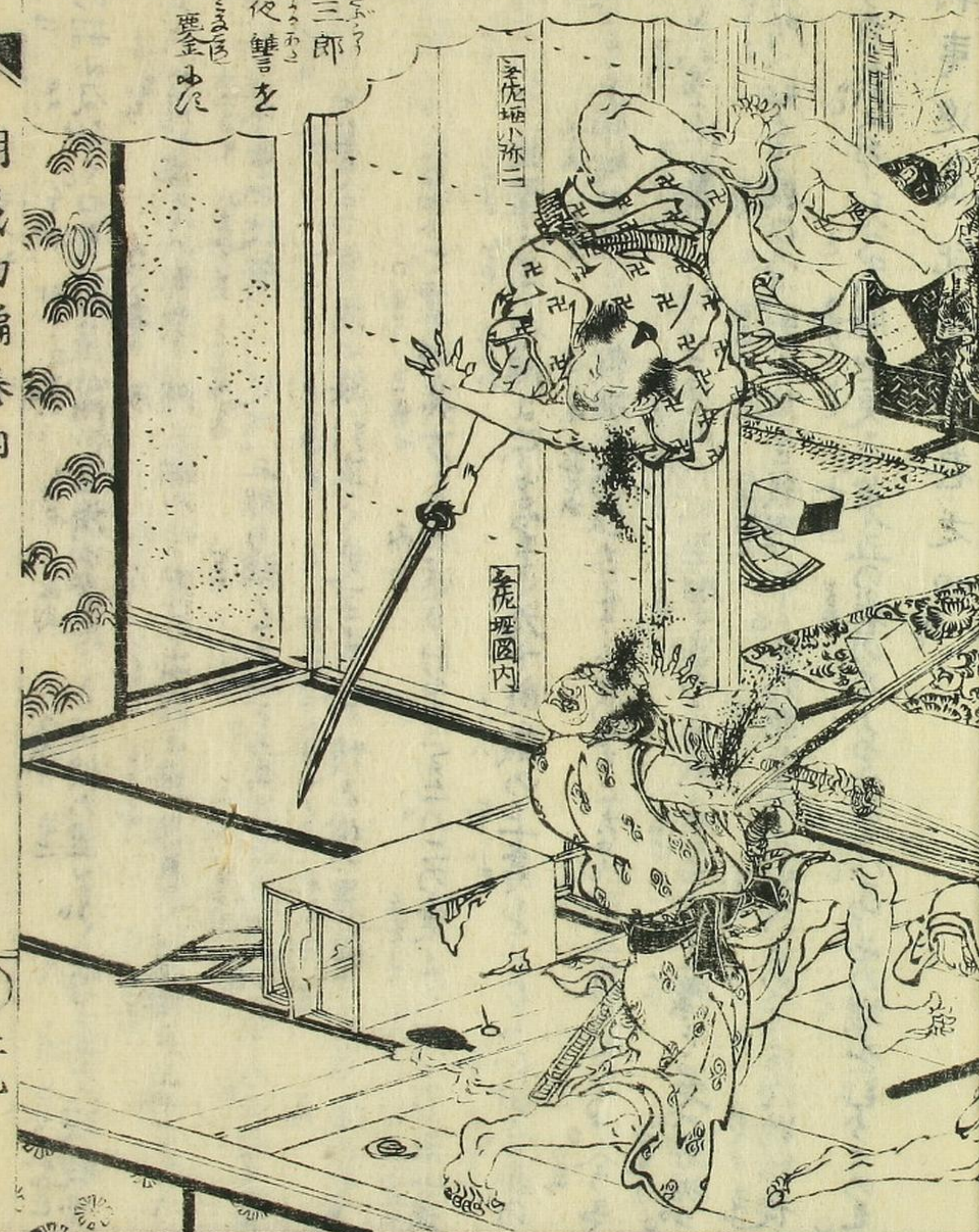


ちかき送すものせん。とていふ。その由火急の旅。まが好され。くひん。さきまから。  
 まふむら。の程ひあり。今東西より。何れ。の冬。れ。の。ま。た。朝。迄。の。尾。と  
 各告。め。が。再。会。の。便。と。さ。る。ま。な。ん。加。以。十。餘。年。養。育。の。恩。産。育。の。恩。ゆ。え。の。  
 母。を。看。む。ら。ふ。と。い。ふ。後。日。小。某。が。入。る。た。か。も。ふ。る。ま。ん。時。反。哺。を。受。く。ま。ら。ふ。今  
 の。別。れ。の。む。ら。う。の。我。環。あ。日。小。某。ひ。く。え。く。余。亦。情。り。ゆ。ら。と。池。の。ま。く。の。物。体  
 ろ。の。假。め。古。主。の。名。を。祀。ま。し。と。憚。あ。る。ゆ。え。と。も。あ。ん。が。が。公。サ。り。あ。あ。あ。あ。  
 こと。も。ご。推。辞。が。じ。い。は。も。あ。く。と。志。信。ら。ん。夜。の。海。ぬ。同。は。出。る。人。住。申。割。る。  
 宿。の。ま。送。色。屋。の。ゆ。あ。ぶ。を。名。残。の。後。と。さ。く。と。終。と。さ。る。ま。小。某。か。ら。  
 親。を。ご。ご。い。ふ。ゆ。め。く。上。総。の。ま。ま。来。入。小。某。ひ。く。せ。代。を。ぬ。る。その。名。を  
 今。ふ。上。且。申。た。は。東。金。の。構。と。い。ふ。商旅。と。ゆ。つ。所。が。今。上。総。ま。と。と。と。を。往  
 方。定。く。め。ま。ら。せ。ね。が。務。本。の。も。た。ね。と。獲。身。囊。小。納。と。る。脩。帯。を。生。産。に。年。月  
 元。暦。元。年。七。月。十。日。小。某。の。産。毛。脩。帯。と。ま。ま。が。ゆ。迹。を。記。し。く。あ。ん。ん。が。ま。れ

ま。い。も。その。月。あ。く。日。の。く。り。嫌。君。の。あ。は。京。の。あ。は。と。か。い。ま。ま。と。さ。ら。く。ま。り。  
 さ。は。人。の。あ。ひ。多。く。と。い。ひ。け。嘆。息。一。噫。と。ま。復。言。愚。癡。を。り。た。六。七。年。と。さ。ら。く。で。  
 往。か。も。ま。ら。ぬ。女。見。が。の。才。の。う。れ。時。ハ。下。不。小。某。ひ。出。し。ひ。出。し。く。ま。ん。が。足。袋。と。さ。ら。  
 一。も。母。の。管。を。甲。夜。の。間。ま。ま。浦。辺。勢。多。人。と。い。ま。ま。ま。が。河。三。郎。の。意。さ。ら。く。の。ま。  
 出。で。ま。ま。二。里。が。送。ら。る。と。送。じ。て。あ。の。日。と。い。ふ。の。際。成。り。掉。て。須。も。ゆ。め。ま。  
 こと。は。お。し。が。う。と。そ。と。い。ふ。ひ。の。ま。く。信。ら。れ。じ。か。が。送。り。く。瀬。ま。く。い。ゆ。ん。  
 否。と。い。入。淫。め。ら。の。あ。る。へ。曉。さ。る。の。ま。出。船。る。と。送。ま。ひ。く。の。ま。復。あ。し。声。を  
 空。籙。の。け。ん。と。音。の。と。の。人。と。引。用。し。裡。面。又。入。る。の。の。庄。司。暇。の。二。三。親。子。の。ま。と  
 一。く。え。り。く。邊。出。迎。は。是。か。あ。ん。が。清。く。ぬ。教。訓。又。ち。ら。つ。た。く。後。支。度。か。ま。る。  
 且。ご。申。下。り。教。し。送。す。別。と。告。ふ。ふ。し。と。さ。ら。く。ち。敷。た。く。い。ひ。と。い。ふ。成。三。次。の。へ。と。

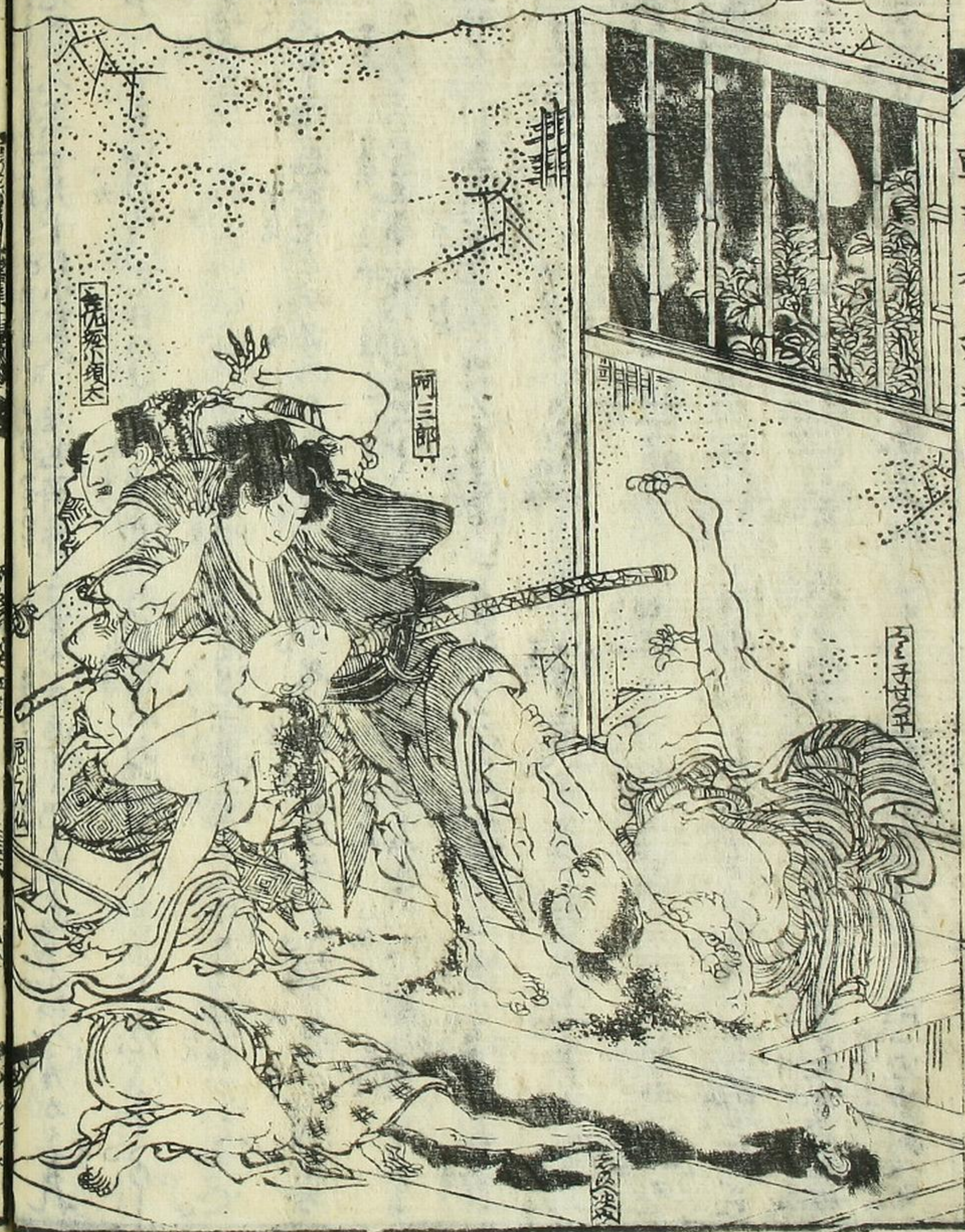


阿三郎  
夜雙を  
要金小次



三虎堀小次

三虎堀内



三虎堀小次

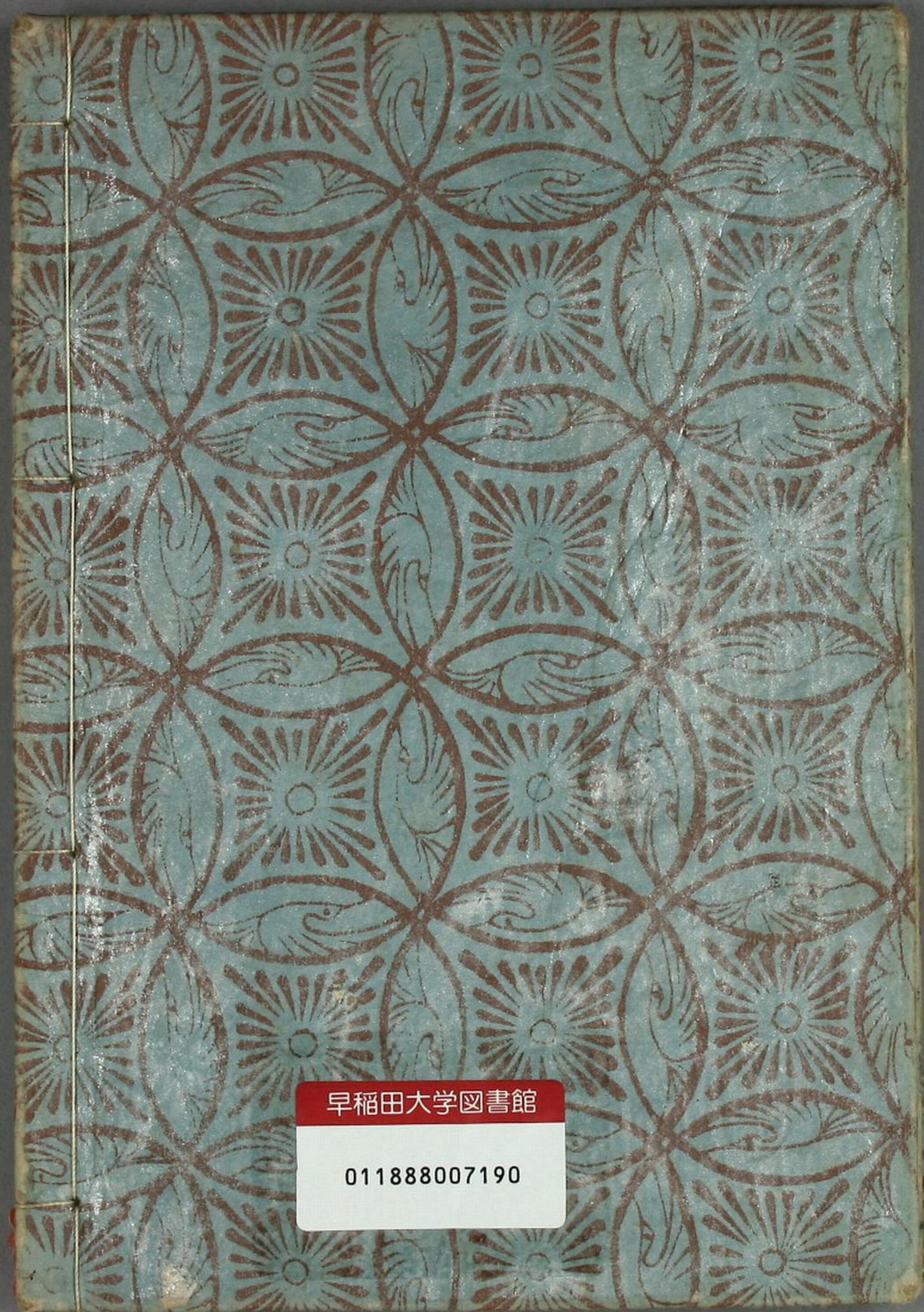
阿三郎

三虎堀内



この病及びびく口をへき蓋母の吾情が案肉く便宜の里やぐ送る善く現親子  
 ひろ共は後で由への却危し阿三郎へ今宵の志願は乗後目て後悔さうとく  
 急げと葉子を扶掖つ門只阿三郎も裾を折るのろ共立出ればさうかとさうと  
 告別言中鼻息のや宵闇小燈引さく走去入の情と母の思海と山あり後のもろ  
 阿三郎へは死やせて要時其方を目送りけり。この葉子の阿三郎の霊山  
 地を流るる編歴一果の信濃はさうさう九十餘歳の上壽をこの和合戦の  
 後やその藪絵の尼とく彼阿三郎ひささうとあるとさう阿三郎の母のろろ  
 ひとむかひに養父の仇は尼眼代ホを殺さうと我立まじと豫くやへ船堀が  
 宿所へむらり潜び入り殺の仇を殺弾せ。その圖はすふ出及といたるの物結長  
 かつるさうらうたうの條を更く第五の巻のそふふとえさうの端をむらうの





早稲田大学図書館

011888007190